

板橋区環境基本計画（第二次）の進捗状況について（概要版）

板橋区は、平成 21 年 3 月に、「循環・共生を推進する環境都市～板橋～」および「パートナーシップが支える環境都市～板橋～」の 2 つを基本理念とする「板橋区環境基本計画（第二次）」（計画期間は平成 21～27 年度）を策定した。

本計画の特徴は、①板橋区の将来の環境に関する考え方を共有するための 5 つの「望ましい環境像」を設定したこと、②環境保全活動を区全体に広げていくための新たな取り組みである「協働プロジェクト」を設定したことである。

このたび、平成 22 年度の実施状況を取りまとめたので、報告する。

1. 計画における環境指標の進捗状況

本計画では、施策の進捗状況や効果を客観的に把握するために、客観的指標による進行管理を行うこととしている。各短期目標 1～16 に示した目標値は、板橋区の環境が改善したかどうかや良好な状態が保たれているかどうかを知る目安となる。

短期目標	数値目標	基準年	平成21年度実績	平成22年度実績	目標値 (平成27年度)	達成状況 (平成22年度 実績による)	達成度 (※1)
低炭素社会を実現するまち							
1 家庭でのエネルギー対策の推進	温室効果ガス排出量 (民生家庭部門)	61.4 万t-CO ₂ (平成18 年度)	59.1万t-CO ₂	69.3万t-CO ₂	54万t-CO ₂ 程度	未達成	△ 71.7%
2 事業所でのエネルギー対策の推進	温室効果ガス排出量 (民生業務および 産業部門の合計)	86.0 万t-CO ₂ (平成18 年度)	75.8万t-CO ₂	84.9万t-CO ₂	81万t-CO ₂ 程度	未達成	△ 95.2%
循環型社会を実現するまち							
4 ごみの発生抑制	区全体から排出される ごみの量 (資源回収を除く)	16.2 万t (平成18 年度)	148,618t	145,825t	13万t程度	未達成	△ 87.8%
5 資源の再利用・再生利用の推進	リサイクル率	18.5% (平成18 年度)	18.8%	18.5%	25%以上	未達成	△ 74%
健康に暮らせる生活環境が快適なまち							
7 自動車から発生する環境負荷の削減	二酸化窒素(NO ₂)の 環境基準達成率	89%(8 地点/9 地点) (平成 18 年度)	89% (8箇所/9箇所)	89% (8箇所/9箇所)	100% (全地点で達成)	未達成	△ 89%
	浮遊粒子状物質(SPM) の環境基準達成率	75%(6 地点/8 地点) (平成 18 年度)	100% (8箇所/8箇所)	100% (8箇所/8箇所)	100% (全地点で達成)	達成	○ 100%
	騒音に関する環境基準の 達成	6%(1 地点/17 地点) (平成 18 年度)	12% (2地点/17地点)	6% (1地点/17地点)	100% (全地点で達成)	未達成	× 6%
	温室効果ガス排出量 (運輸部門)	55.7 万t-CO ₂ (平成18 年度)	54.9万t-CO ₂	54.9万t-CO ₂	45万t-CO ₂ 程度	未達成	△ 78%

自然環境と生物多様性を保全するまち								
10	緑地の保全と創出	区全体の植生被覆率	18.2% (平成16年度)	19.3%	-	19%程度	達成	○ 100%
12	水環境の保全と活用	石神井川の水質基準 (A類型(※3))達成	(平成19年度)			全項目達成	未達成	△ 80%
			pH(※4):7.8	pH:7.6	pH:7.7	pH:6.5~8.5	達成	○
			BOD(※5):1.7mg/L	BOD:0.8mg/L	BOD:0.8mg/L	BOD:2mg/L以下	達成	○
			SS(※6):4mg/L	SS:7mg/L	SS:1mg/L	SS:25mg/L以下	達成	○
			DO(※7):10.3mg/L	DO:10.1mg/L	DO:10.6mg/L	DO:7.5mg/L以上	達成	○
			大腸菌群数(※8): 2,300MPN/100mL	大腸菌群数: 2,800MPN/100mL	大腸菌群数: 1,200MPN/100mL	大腸菌群数: 1,000MPN/100mL以下	未達成	△
		白子川での水質基準 (B類型)達成	(平成19年度)			全項目達成	未達成	△ 80%
			pH:7.1	pH:6.9	pH:7.1	pH:6.5~8.5	達成	○
			BOD:4.9mg/L	BOD:3.9mg/L	BOD:3.3mg/L	BOD:3mg/L以下	未達成	△
			SS:5mg/L	SS:5mg/L	SS:4mg/L	SS:25mg/L以下	達成	○
			DO:7.4mg/L	DO:7.2mg/L	DO:7.4mg/L	DO:5mg/L以上	達成	○
			大腸菌群数: 7,500MPN/100mL	大腸菌群数: 1,700MPN/100mL	大腸菌群数: 1,300MPN/100mL	大腸菌群数: 5,000MPN/100mL以下	達成	○
「環境力」を高め環境・経済・社会が調和するまち								
13	環境保全行動を担う人材の育成	エコポリスセンターから 小中学校への環境学習 講師派遣人数	500人 (平成19年度)	434人	351人	500人	未達成	△ 70%
		環境イベントなどの参加者数	57,980人 (平成19年度)	56,060人	58,995人	100,000人	未達成	△ 59%
15	環境に配慮した経済活動の推進	環境マネジメントシステム (ISO14001 エコアクション21 板橋エコアクション2008) 構築事業所数	計187事業所 (平成19年度)	計236事業所	計265事業所	計750事業所	未達成	× 35.3%
16	計画を推進するための仕組みづくり	協働プロジェクトの参加人数	-	8人	18人	200人程度	未達成	× 9%

※1 達成度は、達成：○、未達成：△（達成度50%以上）、未達成：×（達成度50%未満）とした。

※2 短期目標は1から16までであるが、すべての短期目標に対して目標値を設定しているわけではなく、ここには目標値があるもののみを掲載している。

※3 河川の水質汚濁に係る環境基準値は、水域の利用目的に応じた類型ごとに定められており、石神井川はC類型、白子川はD類型に指定されている。本計画では、それぞれ、より厳しいA類型、B類型の基準値を目標値としている。

※4 pH…水溶液の酸性、アルカリ性の度合いを表す指標で、1（強酸性）から14（強アルカリ性）まであり、pH7が中性である。

※5 BOD…生物化学的酸素要求量（Biochemical Oxygen Demand）のこと。水中の有機物が微生物により分解される際に消費される酸素量。河川の有機物汚濁を測る代表的な指標。

- ※6 SS…浮遊物質 (Suspended Solid) のこと。水中に浮遊・懸濁している粒子で、粘土鉱物の微粒子、動植物プランクトンなどの微生物、下水や工場排水に由来する沈殿物などが含まれる。水質の汚濁を測る代表的な指標。水中の SS が多いと、透明度などの外観が悪化したり、水中植物の光合成が弱まり発育を阻害されたりする。
- ※7 DO…溶存酸素量 (Dissolved Oxygen) のこと。水中に溶けている酸素の量を表す。DO が低下すると、微生物の活動が抑制され水質浄化作用が低下するだけでなく、魚類など DO を利用する他の生物の窒息死を招く。
- ※8 大腸菌群数…大腸菌及び大腸菌と性質が似ている細菌の数のことをいい、水中の大腸菌群数は、し尿汚染の指標として使われている。

2. 望ましい環境像ごとの評価

2-1 「低炭素社会を実現するまち」

板橋区における温室効果ガスの総排出量は、ここ数年は減少傾向にあるが、平成 22 年度は前年度に比べて増加した。電力使用に由来する温室効果ガス排出量の排出係数が増加しているが、エネルギー使用量自体も増加しており、景気回復や猛暑などが影響していると思われる。

板橋区は民生家庭部門の温室効果ガス排出量の割合が高いため、エネルギー使用量の減少、効率的な機器への切り替えなどのほか、環境負荷を低減する意識を高める必要がある。

そのために、省エネ・省 CO₂ のための情報発信、新エネ・省エネ機器導入助成事業や、各種のイベントなどを実施していく。

平成 23 年度の夏は、東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故などにより、電力不足が予想されたため、区民や事業者に節電への協力を呼びかけた。また、区の施設でも、安全などに配慮しながら節電に取り組んだ。

また、冬も、同様の取組みを続けていく。

2-2 「循環型社会を実現するまち」

過去 5 年間ににおける板橋区から排出されるごみの量は減少傾向にあり、資源回収量は横ばいで推移している。そのため、資源・ごみの分別がある程度定着していると考えられる。

特に、民間の回収システムである集団回収による資源回収量は 23 区のなかでも 1 位であり、今後も支援を続けていく。

平成 23 年度からは、「3R¹」の考え方を発展・拡大させた「かたつむりのおやくそく」を合言葉に、「いたばしかたつむり運動²」に取り組んでおり、さらにごみ減量やリサイクルを推進する。

¹ リデュース (reduce: 使用や購入を減らす)、リユース (reuse: 使い捨てにせず何度も使う)、リサイクル (recycle: 再生し、活用する) の頭文字をとった言葉。これにリフューズ (refuse: いらぬものを断る) を加えて 4R ということもある。

² 板橋西清掃事務所が発案した、園児を対象にした環境学習に使用していたもので、「かたづけじょうず・たいせつにつかう・つかいきる・むだにしない・りさいくる」の頭文字をつなげている。

2-3 「健康に暮らせる生活環境が快適なまち」

板橋区内の数か所の測定室での大気汚染物質濃度の測定結果は、オキシダントを除いて改善されてきている。

しかし、区内の気温は上昇傾向にある。自動車公害やヒートアイランド対策などは、一自治体の取り組みだけで改善できるものではないが、引き続き、改善に向けて取り組みを行っていく。

放射能の影響に不安を感じる区民への対応のため、平成23年6月から、板橋区役所、保育園や幼稚園、小学校・中学校、公園・児童遊園等の園庭や砂場での放射線量の測定を行い、順次ホームページで公表している。

2-4 「自然環境と生物多様性を保全するまち」

平成21年度の調査では「緑被率」および「緑に覆われている面積の割合」（植生被覆率）が平成16年度の調査と比べて増加している。

河川の水質は改善されているが、池については良好な水辺環境を維持するのが困難になってきているが、見次公園池や赤塚溜め池の水を交換した。

このほか、地下水の涵養のための施策も、区の施設での取り組みや助成制度などを行っている。

今後も、水と緑をまもる取組や、自然とふれあう機会を創出する取組を継続していく。

2-5 「「環境力」を高め環境・経済・社会が調和するまち」

エコポリスセンターでは、環境学習に関する講座・教室、イベントを実施するとともに、人材育成も行っている。小中学校への環境学習講師派遣人数は減少したが、環境イベントなどへの参加者数は増加したため、一般の方の環境への関心が高まっていると思われる。

環境情報の発信については、環境白書、ホームページ、環境情報誌「エコポ」や広報いたばし等を通じて行なっている。平成19年度に行ったアンケート調査では、「広報いたばしを見ている」という回答が77%と高いことが分かった。広報いたばしにおける環境関連の記事数は増加している。

ISO 認証取得事業者数及び「板橋エコアクション」参加事業者数は増加しており、企業の環境への取組みに対する関心が高まっていると考えられる。このほか、「いたばしエコ・ショップ」としての認定や、「板橋製品技術大賞」の「環境賞」を設けるなど、環境に配慮した事業活動を推進している。しかし、「板橋エコアクション」の参加事業者数が計画値を大幅に下回っているため、特に努力が必要である。

なお、平成23年度より実施している「事業所用新エネ・省エネ機器導入補助金制度」においては、板橋エコアクション等に取り組んでいる事業者からの申請に対する補助額の上限を、高く設定するなどして、参加へのインセンティブとなるよう努めている。